

遭難時ニ考慮シ各隊毎ニ所要ノ資材ヲ準備  
携行セラル

四塔載開始及終了時刻左ノ如シ

器材

四月八日〇八〇〇開始

全 二〇〇〇終了

人員

四月九日一五〇〇開始

全 一七〇〇終了

五塔載要領左ノ如シ

人員塔載順序

前隊梯

竹及梅部隊

後隊梯

櫻及松部隊

二器材 別ニ示ス

六松竹部隊ヨリ軍医一及所要ノ下士官兵ヲ

三月八日〇八〇〇第三埠頭ニ差出し塔載

陸軍

陸

軍

終了時迄救護ニ任セラルベシ

七請隊、給養ハ別命ヲキ限リ四月九日夕食

ヨリ船内給養トス

八船内ニ於ケル通信連絡ハ別ニ示ス

# 命令

四月八日 釜山

一 大隊ハ本夜ニハロソ以降 第二次輸送器材  
、卸下ラ 實施セントス

二 中澤少尉ハ左記人員ヲ指揮シ 第三埠頭  
到着ト同時ニ成ルベク 速クニ 實施スベシ

左記

補給中隊 第二次輸送人員全員

警備中隊 下士官一員ニロシ

三 警備中隊長ハ二。道ニ下士官一員ニカラ 第

三埠頭ニ差出シ 中澤少尉 指揮ニ入ランハシ

同 四月八日 釜山

一 大隊 明九日ハ。ヨリ 第二次輸送器材 船  
塔載ラ 實施セントス

二 丙中隊ハ 別紙勤務員ヲ差出シ 右岸中

尉、指揮ニ入ラシムヘシ  
 三岩崎中尉、前項人員ヲ指揮シ船泊ノ塔  
 載ヲ海員施スベシ

区	分	日	時	積載名	積載量	積載者	積載場所
第一	次	4月8日	08:00	酒、米、油、糖、茶、紙、布、薬、食料、被褥、雑品		中尉	船中
第二	次	4月8日	08:00	自働車、油、紙、布、薬、食料、被褥、雑品		中尉	船中
第一	次	4月8日	08:00	酒、米、油、糖、茶、紙、布、薬、食料、被褥、雑品		中尉	船中
第二	次	4月8日	08:00	自働車、油、紙、布、薬、食料、被褥、雑品		中尉	船中
第一	次	4月8日	08:00	酒、米、油、糖、茶、紙、布、薬、食料、被褥、雑品		中尉	船中
第二	次	4月8日	08:00	自働車、油、紙、布、薬、食料、被褥、雑品		中尉	船中
第一	次	4月8日	08:00	酒、米、油、糖、茶、紙、布、薬、食料、被褥、雑品		中尉	船中
第二	次	4月8日	08:00	自働車、油、紙、布、薬、食料、被褥、雑品		中尉	船中
第一	次	4月8日	08:00	酒、米、油、糖、茶、紙、布、薬、食料、被褥、雑品		中尉	船中
第二	次	4月8日	08:00	自働車、油、紙、布、薬、食料、被褥、雑品		中尉	船中

陣中日誌用紙

同 四月八日 金山

- 一 大隊ハ明日九日一五〇〇七八ニ九ニ乗船去航ト  
 同時ニ射敵保実ト至嚴ナル警戒ヲ實施シ、  
 所命ノ地莫ニ前進セシトス
- 二 本部各中隊ハ明日九日一四三〇道第三埠頭乗  
 船地ニ集合スベシ  
 乗船其他船中ノ配置ニ関レテハ現地ニ於テ  
 指示ス
- 三 船泊輸送間ニ於ケル警備司令ハ松部隊  
 長吉野大尉トス
- 四 警備中隊長ハ乗船完了後成ルハ速カニ  
 左記人員恩林ヲ差出シ警備司令ノ指揮ニ  
 入ラシムヘシ

左記

命令

舍營命令

六 火災浸水及退避、動作に關シテハ別ニ指示ス

五 一般船内、燈火ハ外部ニ漏洩セシメザルヤク

高 監視隊

長以下者ニ組(對空望遠鏡ニ使)

一 部隊日直將校

四 巡察將校

二 日 清水見習士官

八 日 松本見習士官

九 日 池 原

九 日 平野少尉

二 部隊衛兵

八 日

司令

梅

歩哨掛

竹

歩哨

混成

九 日

司令

竹

歩哨掛

梅

歩哨

混成

三 警急集合場ハ玄關前廣場トス

四月九日

本場人員 將校 八 以下 技士 五 兵 五七

行金 山 動

一 本部各中隊全員。七、三。第三準頭ニ至リ  
自働車及燃料ヲ搭載シニ乗船ヲ實施ス



二 一七。〇。乗船完了ス

三 輸送指揮官青柳中佐(第九航空地区夏官)

四 大隊ハ輸送指揮官、指揮ス、船内宿泊ヲ

實施ス

命令 受領セル命令

輸送命令

一 船内日直勤務

月 日

將

校

下士官

摘

要

四月十日

岩崎中尉

森川曹長

上書

安田中尉

幾井曹長

日命 左ノ通部隊日直勤務服務スヘシ

四月九日	當合准尉	校	痛	要
" 十日	片田准尉			
" 十一日	郷司准尉			
" 十二日	玉置准尉			

一、本部各中隊八日直下共官一上等兵一ラ服務セシムル外自隊直接警戒ニ関シ遺憾ナキヲ期シテ下シ

二、九日船内日直將校小笠原中尉トス

三、船内日課時限左ノ通

日朝 莫呼 〇七〇〇

朝 饋 〇八〇〇

會報 一〇〇〇

晝食 一三〇〇

夕食 一八〇〇

日夕莫呼 二〇〇〇

五、診断ハ醫務室ニ於テ臨時行フ本部各隊ハ會報時連者、有無ヲ報告スヘシ

六、明後十日一四〇〇ヨリ各部隊ノ退避訓練ヲ實施スルニ準備スベシ

夜命 作爲セル命令

一、部隊ハ七八ニ分ニ乘船完了後輸送命令ニ基キ所命ノ地ト莫シテ前進セントス

二、本部各中隊ハ乗船完了直後左記警戒隊ヲ差出し燈警備司令、指揮ヲ受ケレハシ

左記

四月九日  
衛生

一部隊携行防虐用衛生材料トシテ左記品目ヲ受領ス

ハ硫規錠。ヒノラミン錠。アクリナミン錠。クレオソート丸。浄水劑。

水蟲液。硝蒼錠。多硫膏。内用アクリノール錠。重曹錠。

「ベス」ト「コレラ」四種混合豫防接種液。以上、十三點

備 一、關東軍補給部釜山派出所ヨリ受領ス

二、特記事項ナシ

考

衛生

生

對	將校	一
下士官	二	補出組
空	七	
對	將校	一本部
下士官	二	各組
潛	七	警中
兵		

三、警備中隊長ハ明日十日〇九〇〇。船内衛兵  
 (長下士官一上等兵二兵七計〇)ヲ差出  
 シ警備司令ノ指揮ヲ受ケムベシ  
 一部隊携行防虐用衛生材料トシテ關東  
 軍補給部釜山派出所ヨリ別紙ノ如ク  
 受領ス

四月十日 本場又員將校八准下技五三 兵二九七

晴 志丸船 行勤 一大隊ハ教送命令ニ基キ〇五三〇〇〇

晴 胃十日 三向ニシテ前進ス 門司入港ニ三、五〇 本場又員 前日・同シ

志丸船 行勤 一部隊長左記事項ヲ教育ヲ實施ス

- 1. 退避訓練
- 2. 對潛訓練
- 3. 船内ニ居ケル起居容儀ニ就テ

情報

一 濟洲島西方ニ昨十日一五〇〇敵潜水艦ヲ発見セリトノ海軍側ヨリノ報アリ

四月十日

去場入彙將校一六 桂下技五三 兵三九七  
先行 將校二

先行動員

一 退船對潛準備並ニ環境ノ整理ヲ實施ス

二 糧秣受領並ニ塔載多ク左記人員ヲ差出シ午蒼大尉指揮ヲ受ケレム



警備中隊 下士官一 兵九  
補給中隊 下士官一 兵一〇

先行

三 岩崎中尉中澤少尉。八〇〇七八二五下船沖繩島ニ先行ス

陣中日誌用紙

命令

命令 日命 作爲セル命令左記ノ如シ

一 本船ハ本十二日一五〇〇出帆ノ予定

二 本部各中隊ハ本船出帆ト同時ニ既ニ示セル旅言戒配置ニ就キ對潛警戒ヲ嚴ニスベシ

三 避難ニ際シ部隊長ノ位置標示ヲ攜帶天幕ヲ以テ作ル標旗トス

四 本部各中隊ハ救命用應用材料ノ配置ヲ標示スルト共ニ之ニ應ズル人員ノ區署ヲ計畫シ教育訓練ニ遺憾ナキヲ期スベシ

六 左ノ通部隊日直勤務ニ服務スベシ  
四月十三日 當 合 准 尉



四月十四日  
 片田准尉  
 王置准尉  
 四月十五日  
 去場入員將校一、天准下技五、兵三九七  
 米行 將校二

四月十五日  
 大隊(七八二丸船)〇〇地向ヒ前進中  
 二特吳士氣果旺盛ニテ是者ノ發生ナシ  
 受領セル情報左、如シ  
 去ル十日沖繩航路船中丸ハ奄美大  
 島西北海岸ニ於テ敵潜水艦ノ電雷  
 撃ヲ受ケ撃沈セリ  
 其ノ他我カ進路海面ニ過去最近ニ至  
 ル間數十回ノ出没ヲ見ル我カ船舶ニ被  
 ル損害ハ甚大ナリ

陣中日誌用紙

陸軍

四月十四日  
 鹿見鳥港ニ入ル  
 一〇五〇〇七八二丸鹿見鳥港ニ入ル  
 二、〇〇〇部隊長ハ大隊兵長次上ニ對シ退  
 船並ニ對潜水艦教育ヲ實施ス  
 三、鹿見鳥港ニ停泊ス

命令  
 作命  
 一、去ル十日以降沖繩航路ニ於ケル敵潜水艦ノ  
 徘徊ハ遂次猖獗ヲ極メアリ  
 二、部隊ハ警戒ヲ部番署ヲ一部変更シ對潛  
 警戒ニ遺憾ナキヲ期セントス  
 三、本部各中隊ハ警戒勤務ヲ編組ヲ左ノ如ク  
 変更シ其ノ都度訓練ヲ實施スルト共ニ

前日ノ同シ

本十四日日没迄ニ徹底的教育ヲ實施スベシ

左記

長

將校

一

下士官

三

兵

七

- 四、補給中隊長ハ對空監視哨ヲ速カニ撤退シ第三項ニ示ス編成ヲ以テ警備司令ノ示ス位置ニ於テ對潛警戒ニ移行スベシ
- 五、本部各中隊ハ遭難時ヲ考慮シ救命用資材、使用スル人員ノ區署ニ関シ不遺憾ナキヲ期シタルベシ
- 本部各中隊ハ船内務規定ノ履行持ニ兼送軍紀ニ燈火管制ニ関シ格段ノ注意ヲ培養スベシ

陣中日誌用紙

陸軍

作命

一、本船ハ鹿見島港ニ停泊ス出航ハ十六日未明ノ豫定

衛生

四月十五日

晴  
大気船内  
行動

- 一、幹部以下指導監督者適切ニシテ全員士氣旺盛鹿見島港ニ入ル
- 二、本部各中隊ハ停泊間對潛監視ヲ徹底シ出發三十分前迄ニ請準備ヲ完了スベシ
- 三、鹿見島市ニ半減上陸ヲ許可セラル

一四〇。門司 油繩島ニ先行中、  
岩崎中尉中澤少尉ハ天候不良ノ多



衛生

歸船ス行動別隊ノ如シ  
 三四二〇安田中尉、指導ニ依リ退船訓  
 練ヲ實施ス  
 一、同船中、第三飛行場中隊ヨリ赤痢疑似  
 患者一名發生、即日鹿児島陸軍病院ニ  
 入院セリ直ニ船内、消毒ヲ實施シ生水  
 ノ飲用嚴禁示テ指、消毒等、防疫會報  
 ヲ次テ全員防疫ニ務メタリ

中日誌用紙

四月廿五日  
 晴  
 大丸船内  
 行動

命

命令受領セル命令左、如シ  
 一、船内日直勤務、通服務スベシ  
 左記

船内日直	特校同	下士官
月日	特校	下士官
四月廿五日	岩崎中尉	白坂曹長
四月廿五日	安田中尉	佐藤曹長



去場ノ員將校一八、准下校五三、兵二九七  
 先形、帰船ス  
 一〇五〇〇三、菅中尉指導ノ許ニ退船訓  
 練ヲ實施ス  
 二、疲勞、回復多ク、輸送指揮官指示ニ依  
 リ、第二次鹿児島市街ニ半減上陸ヲ實  
 施ス

深為セル命令左ノ如シ

日命一各隊八明十七日左記人員ヲ七時十分迄ニ  
船尾廣場ニ差出し松部隊ヲ用シ  
尉ノ指揮ヲ受ケルムベシ

長

加藤少尉

(補給中隊)

下士官一

(警備中隊)

兵一

(右 同)

下士官二

(補給中隊)

兵一

(自動車隊)

下士官一

(中路曹長)

二左記ノ通部隊日直勤務ニ服務スベシ

四月廿日 飯島少尉

四月廿日

玉置准尉

四月廿日 玉置准尉

四月廿日

片田准尉

四月廿日 片田准尉

(昭一四二〇 奉天大野納)

別紙

・先行者ノ行動

四月廿日

七八九三。下船門司駅出發 博多

駅前一泊ス

四月廿日

博多駅一。五。發 交通列車ニ依リ

鹿見島港ニ向ヘ前進ス 同港着 一七五。

同港ニ泊ス

四月廿日

〇八。〇。油繩 客船ニ乗リ 兼船 鹿見島

港ニ發 口之 永良部島ニ停泊

四月廿日

天候不良ノ故 同島ニ發 鹿見島港ニ

歸港 一七。〇。着 同港ニ泊ス

四月廿日

一四。〇。輸送船ニ歸船ス

(昭和十八、四、同善堂納)

飛鳥丸命令左ノ如シ

本隊不明トシテ先人集ルニ時ニ本隊  
北尾廣場ニ着出シ松浦家ニ圍ム

四月十九日

飛鳥丸ニ對シテ警戒トシテ本隊  
警戒トシテ本隊ニ對シテ警戒トシテ

四月十八日

本隊下田ノ方ニ進出スルニ本隊  
警戒トシテ本隊ニ對シテ警戒トシテ

四月十七日

本隊下田ノ方ニ進出スルニ本隊  
警戒トシテ本隊ニ對シテ警戒トシテ

四月十六日

本隊下田ノ方ニ進出スルニ本隊  
警戒トシテ本隊ニ對シテ警戒トシテ

四月十五日

本隊下田ノ方ニ進出スルニ本隊  
警戒トシテ本隊ニ對シテ警戒トシテ

新行若ノ行跡

陣中日誌用紙

前日ニ同シ

四月十五日 晴

七丸船内 行 勤

一中路主計曹長左記人員ヲ指揮シ糧秣  
補備塔載ヲ實施ス

左記

補給中隊 下士官一兵一〇名  
警備中隊 下士官一兵一〇名

命令

二受領セル命令左ノ如シ  
本船ノ出帆ハ十八日正午トシ本輸送ヲカノハ

一三船團ト呼稱ス

三作鳥丸命令左ノ如シ

作命

敵潜水艦ノ出没狀況ハ依然猛威ヲ振ヘリ

2. 本船ハカガハ一三船團ニ加入シ明十八日正午  
 現在地ヲ出航。〇〇ニ向ヒ前進ス  
 3. 本部各中隊ハ燈火官制ヲ退避時ノ服  
 装ニ関シ一團段ノ教育ヲ實施シ遺憾ナキ  
 ヲ期スベシ  
 4. 航行間ノ警戒部署ヲ左ノ通變更ス  
 (1) 船内衛兵服務 自一七、三〇間  
 服裝ハ時服ニ防雨外套着用軍装トス  
 (2) 對潛監視服務 從前ニ同シ  
 服裝ハ背負ヲ除キ防雨外套着用  
 5. 航行間各勤務ト雖モ船線ヨリ上ニ身体ヲ出  
 ササル如ク退敵シ又偽裝上遺憾ナカラシムベシ  
 6. 航行間晝夜ヲ變更シ晝間ハ勤務者次外  
 將校以下甲板上ニ上ルヲ禁ズ

四月十八日 雨 前日同シ

七三九船 行 勤  
 一本日出航ハ都合ニ依リ延期セラル  
 特記事項ナシ

四月十九日 晴 前日ニ同シ

七三九船 行 勤  
 一三、〇、七八ニ丸ハカガハ一三船團ニ加入シ鹿見  
 島港ヲ出航ス

衛生 二 滞在間疾疫發生スル事ナク全員士氣旺盛  
 鹿見島港ヲ出航ス

四月二十日 晴 前日ニ同シ

月  
六五船四  
行  
勤

一、七〇〇中之島水道海上ヲ航行ス

二、船團八一九五。大島港停泊愈々危険地  
域ニ入ル大隊ハ益々對潛警戒ヲ嚴ニスルト  
共ニ周到ナル退船準備ヲ實施セリ

命

令

三、受領セル命令左記ノ如シ

輸命

ス各部隊ハ愈々對潛準備ヲ實施スルト共  
ニ欺装ニ處置行動ヲ強化スベシ

情報

四、船團ヲ全軍警戒令ニ發令セラル  
前日ノ如シ

四月三日

晴

行  
勤

一、カレノ八三船團ハ〇三〇。大島港ヲ出發〇〇  
ニ向ヒテ前進ス

(附一編・一〇・奉天大野砲)

陸中日誌用紙

陸軍

命

令

二、一九〇。沖繩本島北端港灣ニ停泊ス  
三、受領セル命令左ノ如シ

輸命

ス南方戰域ニハ有カナル敵機動部隊進攻  
中ナルモノ如シ

我が船團ハ天祐ニ依リ極メテ危険ナル海  
面ヲ海空接護ノモト堂々タル航行ニ依リ

明二十二日〇〇。那覇港ニ入港ス下確實  
ナリ

2. 各部隊ハ那覇入港後那覇宿營ノタメ  
各部隊ヲ將校一下士官一ヲ輸送副

官ノ許ニ差出し指示ヲ受クベシ  
3. 人員ノ上陸ハ二十三日〇八〇。諸資材ノ

揚陸作業ハ二十三日正午ト豫定ス  
作命四作爲セル命令左ノ如シ

1. 大隊ハ輸送指揮官命令ニ基キ上(場)陸ヲ準備スベシ  
 2. 佐藤少尉ハ(下)士官一ヲ附ス。那覇入港後輸送副官ノ許ニ至リ那覇宿營、指示ヲ受ケベシ  
 3. 本部各隊ハ明二十三日ハ九。逆軍裝ノ整理ヲ完了シ。逆ニ異常、有無ヲ報告スベシ  
 4. 南地准尉ハ本艦長ヨリ借用物品ノ返納準備並ニ返納ニ任ジ業務終了後異常、有無ヲ報告スベシ  
 5. 日直將校ハ所要ノ當番ヲ指揮シ船内ノ清掃ヲ完全ニ實施スベシ

昭和十四年六月二十三日

陣中日誌用紙

陸軍

四月二十三日

晴

六丸船内

行 動

本場人員將校八名下技五名 共二九名

- 一。六。〇。カ。一八三船團ハ沖繩本島北端港灣ヲ出發。〇。地ニ向ヒ前進ス
- 二。那覇港着。一。〇。〇。
- 三。輸送命令ニ依リ佐藤少尉 田村曹長 部隊設營、夕メ下船ス
- 四。一六。〇。部隊ハ七八ニ丸ヨリ上陸開始一七。〇。全員上陸完了
- 五。設營者、指示ニ依リ與儀仮舎著一八一。〇。同地ニ宿營ス
- 六。幹部以下防疫軍紀ヲ振作シ船内防疫ニ務メタル結果爾後一名ノ患者發生モナク

衛 生





命  
四月三日

無事沖繩那霸港着志氣旺盛那  
霸與儀廠舎宿營ス  
七作為ル命令別紙ノ如シ

行晴  
動

一部隊ハ王カラソテ輸送器材ノ揚陸  
施ノタメ廠舎ヲ。六。出發那霸  
ニ於テ揚陸作業ヲ安貝施ス  
二同日部隊ハ那霸與儀廠舎ニ宿舎ニ

命令

泊ス  
三作為ル命令別紙ノ如シ

那  
四月三日  
那

陸軍

陸軍

一三〇〇五

警備中  
本部

四加藤少尉ハ左記人員ヲ指揮  
〇〇道ニ諸資材揚陸第二班長永田中尉

命

令

無事沖繩那霸港着志氣旺盛那  
霸與儀啟舍宿營又  
七作為此命令別紙ノ如シ

(昭和十四年一月一日)

陣中日誌用紙

別紙 作命

一、大隊ハ明ニ三日ノ八〇〇ヨリ人員同一三〇〇ヨリ  
 諸資材揚陸作業ヲ實施セリトス

二、本部各中隊ハ〇七四ノ道ニ人員器材ノ揚陸  
 掛ヲ副官ノ詳ニ差出し指テ受ケシムベシ

三、羽野少尉ハ左記人員ヲ指揮シ明ニ三日ノ一〇〇〇  
 道ニ諸資材揚陸作業第一班長飯島  
 少尉ノ指示ヲ非受ケベシ

左記

補給中隊 下上官 一 兵 六

警備中隊 同 二 同 二〇

本部 同 九

四、加藤少尉ハ左記人員ヲ指揮シ明ニ三日ノ一〇〇  
 〇〇道ニ諸資材揚陸第二班長永田中尉

ヲ指揮ニ入レシムベシ

五 左記

再兼由本部 下士官 一 兵 一

補中 同 一 兵 一五

五 柴田少尉 左記人員ヲ指揮シ明ニ五日

一〇〇〇 迄 諸次員材揚陸第三班長安田  
中尉ノ指揮ニ入レシムベシ

左記

敬言備中家 下士官 一 兵 一五

六 松本見習士官ハ左記人員ヲ指揮シ諸  
次員材揚陸第四班長藤島少尉ノ指揮  
ニ入レシムベシ

左記

本部 下士官 一 補中 一 兵 一三

(第一四・一〇 幸天大野崎)

陣中日誌用紙

陸軍

七 中澤少尉 飯島少尉 左記人員ヲ指  
揮シ陸上集積班長小笠原中尉ノ指  
揮ヲ受クベシ

左記

本部 將校 (一) 下士官 (三) 兵 (一〇)

警中 同 (三) 同 (全員) 同 (三五)

補中 同 (全員) 同 (一〇)

八 敬言備中隊長ハ下士官 一 兵 四ヲ明ニ三日

二、〇〇 迄ニ小笠原中尉ノ許ニ差出シ其ノ指  
揮ヲ受ケシムベシ (揚陸監視衛兵)

九 對監視徹收ニ関シテハ敬言備司令ノ指示  
ニ據ルベシ

五 船内日直將校以下、日直勤務船内  
衛兵ハ別ニ示ス日時迄從前通トス